

まちづくり出前市長室（斎田地区）開催記録

日時：平成25年2月6日（水） 午後7時から8時半

場所：斎田集会所

参加者：市民 34人、市関係者（市長、副市長、市民環境部長、下水道課、市民協働推進課）

1. 斎田地区自治振興会 会長あいさつ

2. 市長あいさつ

3. テーマに基づく意見交換

（テーマ：「地区自治振興会 と まちづくり」～住民参加の現状と課題～）

会長 斎田地区自治振興会がどのような活動を行っているか報告したい。

当地区には大きな行事が2つある。1つは、10月に行われている敬老のつどいである。これは、市長にも出席いただき、古い歴史があり、長く続いている。

もう一つは、当地区には、岩崎神社があり、昔は廻り踊りなどの催しをしていたが、これに代わり、現在は、斎田集会所で納涼大会を行っており、たくさんのかたにお集まりいただき、のど自慢や踊りを披露してもらっている。

また、毎年3～4回、地域の皆さんにご協力いただき、町内一斉清掃を行っている。朝の8～10時まで、黒崎バイパス、汽車公園、八幡神社、岩崎神社の除草・清掃を行っている。おかげで、毎回たくさんのかたにお集まりいただいている。

また、「花のまちさいた」というグループが中心となって、黒崎バイパスの花壇の除草、水やり、汽車公園の清掃、美化活動を行っている。これらの活動は季節を定めて行っているのではなく、毎日どなたかが行っているため、黒崎バイパスは非常に綺麗になっている。汽車公園も、子ども達が遊びに来ても危なくないように、また、季節ごとの花が咲くように努力している。

また、11月には、高齢者教室を公民館で行っている。これに参加する方々と自治振興会役員が一緒になり、撫養小学校で昔の遊びやゲームなどを取り入れて、和やかな雰囲気でも三世代交流も行っている。

斎田地区では、自主防災会を結成している。当地区には、高等学校、小学校、幼稚園、保育所があり、そこに通う子ども達がたくさんいる。学校や地域からの要請があり、鳴門高校と自主防災会の役員が合同で、防災訓練を行った。また、幼稚園・保育園の避難訓練も私たちが協力させていただき、子ども達を台車に乗せたり、背負ったりしながら、鳴門高校の避難場所まで誘導した。9月1日の防災の日には、「逃げるぞ」という掛け声をかけながら、岩崎神社や鳴門高校、八幡神社などに自主的に避難してもらい、家から避難場所までどれくらいの時間が掛かるのか地域住民に体験してもらった。

市長の「地区自治振興会とまちづくりについて」の考え方を聴かせていただきたい。

市長 今、会長から齋田地区自治振興会の取り組みについて聴かせていただいた。そのうち、10月の敬老のつどいは私も参加させていただいているが、高齢者のほか、幼稚園児や保育園児も参加しており、三世代交流に近いような場を作らせていただいていると感じている。子どもたちが練習してきたものを披露すると、高齢者のかたも喜んでいただけるので、今後も続けていただきたい。

鳴門市には、現在、100歳以上のかたが32名おられ、最高齢は107歳のかたである。100歳の誕生日に必ずお祝いにご自宅まで伺っているが、自宅で暮らしているかたは元気であると感じる。市としても、自宅で元気に暮らしていただけるような制度を作っていきたいと考えているが、そのためには、民生委員さんを含め、地域の皆さんで見守っていただきたいと思っている。

1月号の広報なるとに掲載させていただいた「災害時要援護者避難支援登録制度」は、地震等の災害時に備えて、高齢者など支援が必要な方の情報をあらかじめ市と地域が共有しておいて、平常時の見守りや災害時の避難誘導などの支援に役立てていただくという制度である。「個人情報の保護に関する法律」が制定され、個人情報の取扱いが難しくなっているため、地域への個人情報の提供を同意したうえで、登録したいというかたを募集し、その情報を地域にお知らせし、管理していただきながら、自主防災会や自治振興会の皆さんにも協力していただきたい助け合いの制度である。始まったばかりなので、これから1年、2年と経過していくうちに充実させていきたいと考えている。

これに関連した「救急医療情報キット」は、高齢者が自宅の冷蔵庫の中にかかりつけ医、現在治療中の病名、服用している薬名などを記入した「救急医療情報キット」を入れておき、救急車が来て、救急隊員がそれを搬送先の病院に渡せば、医師が正確な情報に基づいた対応ができる。2年前にこの制度を取り入れてから、3例ほど事例があり、迅速な措置につながっている。情報は大事なもので、今後も続けていきたい。地域の皆さんと一緒に、地域に根ざした生活が送れるような支援を進めていこうと考えている。「こんなことをしてほしい」という提案をいただき、救急医療情報キットのほかにも、担当課と相談しながら色々な仕組みを作っていきたいと考えている。

また、「花のまちさいた」というグループで清掃活動、美化活動をしていただいております、非常にありがたい。

地域の美化活動としては、5月の最終水曜日に、チャレンジデーとして、「1日に15分間体を動かしましょう」という取り組みに合わせて、清掃活動もしていただいております、大変うれしく思う。

今後も、「花いっぱい運動」なども含めて続けて行っていただきたいと考えている。

各地域には、小学校や中学校があり、合同で色々な活動を行っているが、鳴門高校との連携を図っているのは齋田地区だけであり、今後も続けていっていただきたい。

平成22年度より、各地区自治振興会に「地域づくり事業活性化補助金」を交付させ

いただいております、有効に活用していただけたらと思う。

最後に、「最近、町内会に入ってくれる人が少なくなった」とどこの地区でも言われる。「高齢化が進んでいることと、若い人がなかなか手伝ってくれない」と言われる。特に、旧の住宅と新興住宅が並び立つ地区では、古くから住んでいる人と新しく住み始めた人との連携がなかなか取れていないという悩みを聴く。今後は、どのようにすれば連携が取れていくのかということと、地区自治振興会や町内会の大切さを、市からも声を掛けていかなければいけない。60歳を過ぎて退職をされたかたに町内会の中心に入っていただきたいが、なかなか進んでいないということが、鳴門市全体の問題になっており、県下、もしくは全国的な問題でもあると思っている。今後も、地域の人材育成については皆さんと一緒に考えて取り組んでいきたいので、ご支援・ご協力をよろしくお願いしたい。

4. 地域の課題について意見交換

市民 下水道についてお伺いしたい。下水道への接続が遅いほうが、助成金額が多くなるということがあるのか。

市長 下水道に接続していただいた際に、助成金を出すという話は、平成21年の供用開始の時から始まった。その際、3年以内につないでほしいという思いから、1年目はいくら、2年目はいくらといった形で金額を決めさせていただいた。3年目までは3万円の助成金を出し、その後、6万円になったが、これは国の補助制度を活用したことによる増額である。

私が下水道事業を行うにあたり、斎田・桑島・南浜地区を訪問した際に、「隣の家の人がつなげばつなぐ」とか「町内会でつなぐのであればつなぐ」といったご意見を伺った。そこで、接続工事が2～4件、5～7件、8件以上といったグループ単位で接続していただくと、助成金を加算する制度を今年度作らせていただいた。そのことが、「先につないだ人は助成金が少なく、後からつないだ人は助成金が多い」ということになってしまったものと思う。

市としては、「接続していただくためにはどのようなことをすれば良いのか」と考えた時に、「集団であれば、つなぐ」というご意見があったので、グループ申請制度を導入させていただいた。とにかく、接続率を上げるということが、大命題である。接続率を上げることによって、下水道を好循環していきたいとの思いから、今回、この制度を作らせていただいた。

市民 「グループで接続すると負担が少なくなる」との話であったが、何人のグループで申請できるのか。

市長 2～8件以上までと色々あるが、8件以上のグループが、一番効率的に補助金を出すことができる。市民からの意見を聴き、今回の制度を作らせていただいた。

市民 庭に水をやる場合に、その使用分も下水道使用料に入ってくる。それはどうにかならないのか。

市長 水やり分は下水道につながずに、別の水道メーターを設置して、その分は、後から差し引くという話も出た。しかし、水道メーターを設置するためには1～2万円くらい掛かり、その費用は市が負担することができないので、「そうまでして、メーターを設置できない」というかたもいた。

また、水やりをするということを前提に、初めから何パーセントかの減額の話も出たが、うまく話が進まず、水やりの分のお金もそのままいただいているという現状である。

会長 斎田地区は、「花のまちさいた」というグループを作って、地区のかたがご自宅前の花壇等に水やりをしてきている。その際、下水道料金が当然ながら掛かってくるので、そのことに思いを馳せてのご意見だったと思う。

市民 黒崎バイパス沿いに住んでいるが、バイパス沿いの街路樹はどうにかならないか。少し前に、剪定していたようだが、落葉する前（冬の初め）に剪定して欲しい。毎年のことだが、近所の方が掃除しており、私も1週間に2～3回掃除している。ボランティア袋を利用しているが申請しなければもらえない。それも1人につき10枚である。いつもお世話をしてくださる斎田地区の役員さんのようなかたがいれば、まとめて関係するところに配ってくれるが、市が各家庭を回って「今年もよろしくお願いします」と配るべきではないか。ボランティア袋では間に合わないから、通常の指定ごみ袋を使う時もある。黒崎バイパスは市のメイン通りなのに、路肩に落ち葉がいっぱいになり美しくない。少なくともボランティア袋に関しては、市の方で各家庭に配布するべきだと思う。自分が、元気なうちは良いが、週に何回も掃除しなければいけないというのは大変である。一軒ずつ配るのが手間なら、どなたかにまとめて渡してほしい。

それと、黒崎バイパス（成徳高校付近）の路肩のことだが、雨が降り、ひどい時は、道路の半分くらいまで水が溜まる。落ち葉が排水溝に詰まっていたり、排水を流す勾配がないために溜まってしまうのではないか。

街路樹の周りにレンガで囲いを作っているが、老朽化が激しい。「花のまちさいた」で年に3～4回掃除するが、修理まではできないので、考えていただけないか。また、街路樹の根が張ることによって、歩道に凸凹がある。下水道工事の絡みでかなり改善されてきているが、まだ何か所か凸凹が見受けられるので、修理してほしい。

市長 色々とボランティアをしていただき、本当にありがたいと思っている。

袋の種類として、ボランティア袋と公園緑地袋の2種類がある。ボランティア袋を、使っていただくと、クリーンセンターで処理をする。公園緑地袋は、公園や緑樹帯の落ち葉を入れていただくと、鳴門ウチノ海総合公園に持って行って堆肥化する。ただし、量が多く、全て堆肥化することはできない場合は、クリーンセンターで処理する。このことを今まではなかなかご説明できていなかった。

公園緑地袋は、基本的には自治振興会などの団体の皆さんに、公園緑地課が直接持って行き、使用後の袋も公園緑地課が回収する。

ボランティア袋については、申請をしていただく必要があり、回収もご自身でクリー

ンセンターに持ち込んでいただいたり、ステーションに出していただく。

お配りしている資料は、公園緑地袋とボランティア袋の比較を書いている。見ていただくと、公園緑地袋は直接、市から配布することになっている。枚数に制限はなく、回収も公園緑地課の担当者が行う。個人のかたについても、一度ご相談いただき、その後3～5人のグループで袋を使っただけならありがたいので、そのような説明も公園緑地課からさせていただきたい。このような説明は今までしたことがなく、私自身も反省しているが、ご理解いただきたい。

レンガのことだが、見てみると非常に傷みが激しく、見た目が悪いと思うが、レンガを直すところまで至っていないというのが現実である。できる限り、剪定と木を撤去するということで対応していこうと思っている。下水道エリアについては、ある程度修理したが、残る場所は優先順位を付けて修理をさせていただきたい。

木の根が張ることによって、道路が波打っているということはよくわかっており、鳴門大塚スポーツパーク前の老人ホームのところ非常に危なかったが、そこは修理をさせていただいた。ただ、直すのには非常に時間とお金が掛かるので、優先順位を付けて順番に直していきたいと思っている。

旧成徳高校前の側溝に落ち葉が溜まるということであったが、これについては、早速、明日見に行かせていただこうと思う。

市民 雨の時に見に来ていただけたら、排水溝が詰まっているの是一目瞭然だ。それと、街路樹の剪定作業は今の時期にするものなのか。一昨年は、冬の前に枝を切っていた。今回は、なぜこの時期に剪定をしたのかと思う。

市長 そのことについては、担当課と話をして確認しておく。

市民 うずしおふれあい公園の遊具について質問したい。円形のコンクリート塀に沿って、使用禁止とロープを張っているが、コンクリート塀を撤去するなどして、有効利用できないか。

市長 うずしおふれあい公園は平成8年にできていて、その遊具は板張りだったが、腐って使用できなくなってしまった。そのままにしておく危険なので、板の部分撤去した。すると、コンクリートだけがむき出しになって危険なので、とりあえずロープを張って使用禁止にしている。コンクリートごと壊して、直してしまえば良いという話になるが、そうすることもできないのでそこを説明させていただきたい。

公園の施設は、国からの補助金を活用して造った。国の補助金で造った施設は、何年間かはそのまま使わなければいけないことになっており、コンクリートの遊具も、壊すことになれば、その分の補助金を返還しなければならない。そのことも考慮しなければならないということがまず一点ある。

土で覆って、芝生を植えてその上を走れるような形にすることも考えられるが、これも高額な費用を要する。

壊すにしてもお金が掛かるし、有効利用してもお金が掛かる。しかし、子ども達に

とっても危険であり、見栄えの問題もあるので、しばらく時間をいただいて考えさせて
いただきたい。

会長 問題の遊具は、もともと設計的に子どもにとって危険な勾配だったと思う。元の通
りにすることは望んでいない、これから遊具などを計画するときは、子どものことを
一番に考えてほしい。

市民 町内会で、津波が来た時に、「高齢者や足の不自由な人が多く、遠方へ逃げるのは
無理だろう」、「近くの鳴門高校に逃げることはできないか」との意見が出た。そこで
心配なのは、学校が開いている時は良いが、夜間に地震が起こり、津波が来る場合、
住民が鳴門高校行った時、高校が開いているのかどうかという不安がある。そこで質問
だが、地震で、津波が来ると想定した場合に、誰がいつのタイミングで鳴門高校を避難
所として開設するのか。道路が寸断されている可能性もあり、「鳴門高校の近くに住んで
いる人でなければ、避難所を開設できないのではないか」との意見も出た。わかって
いる範囲でお話いただきたい。

市長 この斎田集会所も、避難場所になっている。ここは、台風や洪水等の災害の避難所
になるが、地震の時に、果たして耐えられるのかどうか、なかなか難しいと思っている。

台風時の避難所と地震時の避難所を分けて考えなければいけないので、その作業を
全市的に行っているところである。国や県の想定が出されたのがかなり遅れ、鳴門市は、
去年10月に県が出した想定を使うことになっている。地震時にはどこを避難所・避難
ビルに指定するのかということ、今、決めている最中であり、「誰が避難所を開設する
のか」ということは、避難所が決まった段階での話になると思う。具体的に鳴門高校の
話が出たが、県の施設なので県との話し合いが必要になってくるが、明らかに鳴門高校
は避難場所になるはずである。県との話し合いの中で、どのように場所・時間帯を提供
するかとの話になると思う。ある小学校との話し合いの中で、このようなことを言われ
ている。「夜間に津波が来た時に、避難所を開設できなければどうなるのか」との話が
出た時に、校長先生曰く、「ガラスを壊して入ってください」ということである。だから、
そのようなこともあり得る。

また、避難ビルの指定に関して、設計の専門家から「ただ単に高さのあるビルだけを
選定しても良いのか」、「鳴門に地震が来た時に、まずは液状化現象を起こす」、「地盤を
どのようにして建てたかという、ビルの素性を考えなければ、傾いたり、崩れたりする
可能性もあるので、そこまで考えて避難ビルの指定をしてください」という意見があり、
それを考えての指定をする必要がある。だから、非常に時間が掛かるということが現状
である。たとえば、消防庁舎を新しく建てて、2月に落成式を行うが、あの建物は杭を
何十本も打っている。それくらいのことをしなければ、岩盤がないので、なかなか難し
いとのことである。避難ビルを選定する時もそのことが大事になってくるので、今、
1つずつ当たっている。立岩地区であれば、大塚製薬工場を避難ビルとして指定させて
いただいている。大塚製薬は、津波対策として、10数億円かけて色々な対応をして

いる現状があり、鳴門高校については、どのような状況になっているのかを、市危機管理担当に確認させる。

会長 実は、学校長から「ガラスを壊してでも中に入ってください」と言われている。また、「ドアの鍵の保管に関することも相談しよう」と言われているのでこの場で報告しておく。

市長 私から、鳴門病院の話をさせていただきたい。

皆様にはご心配をお掛けしたが、去年、方向性が決まり、この4月から「地方独立行政法人 徳島県鳴門病院」という名称に変わる。建物は県が買い上げたが、独立採算制で頑張っていくので、実態としては今までの鳴門病院と変わらないと思う。今まで勤めていた医師や看護師、職員等は、4月からも引き続き勤務することになっている。このような状況なので、ご心配していただかなくても大丈夫だが、これから5年間の経営計画を立てて、その中で頑張っていたくという状況である。

市としても支援していく必要があり、鳴門病院の東側道路の拡幅工事を現在、行っているところである。道路の拡幅によって、救急車が入りやすくなる。一時は、救急患者の受け入れ率が60％くらいまで下がっていた時期があったが、現在は78～80％に戻りつつある。

現在、鳴門病院の院長は、徳島大学の現役教授であり、それをやめてこちらのほうに来ていただいているので、徳島大学とのパイプが太い。循環器科の医師が何名か辞められた時にそのかたが来られた。そのパイプを使っていただきながら、良い状況になっており、今年は黒字になっている。そこで、皆様をお願いしたいことは、鳴門病院は、かかりつけ医から紹介状を書いてもらってから受診することになっている。そうすることによって、医師、看護師が少人数で間に合わせられるので、良い循環である。昔は、なかなか受診の順番が回ってこなかったが、今はそのような状況の中で、きちんと運営ができているので、皆さんからもお伝えしていただきたい。鳴門病院がなければ困るし、救急の8割は鳴門病院が支えている。市民の力で存続させていかなければならないし、地域医療を守っていかなければならないと思っているので、その点にご協力いただきたい。お願いになるが、大体の症状はかかりつけ医で対応できるため、まずはかかりつけ医に受診することを心掛けるとともに、あまり重病ではないのに、夜中に病院に行く「コンビニ受診」も控えていただきたい。

4月から鳴門病院がどのように変わっていくのか、ということも、3、4月号の広報などでお知らせさせていただく。

2月17日には、鳴門地域地場産業振興センターで、鳴門病院の院長をパネリストに迎えて、「医療フォーラム」が開催される。徳島大学の先生や鳴門市医師会会長にも来ていただいて、鳴門の今の地域医療について話をさせていただくので、皆さんにもぜひ参加していただきたい。

市民 一時期、医師がたくさん辞めていって評判を落としていたが、今は大丈夫なのか。

市長 3～4年前に循環器科の医師が複数辞められたが、今は、徳島大学病院からも来ていただいている、回復している。地域として必要な病院であり、市からも正しい情報を伝えていくので、皆さんからも正しい情報をお伝えいただくとありがたい。

市民 下水道工事が始まっているが、下水道の接続率はどれほどになっているのか。

市長 だいたい20％ほどである。何年目までに何％の接続率があれば均衡を取れるような運営になるというシミュレーションがあり、今は4年目に掛かっているが、そのシミュレーションからはあまりかけ離れていない。今後、計画通りになるように、接続していただくことが大事であると思っている。

市民 接続を促すことは簡単だが、下水道料金を廃止すれば良いではないか。松茂町か藍住町は、料金を返却したという話を聞いた。受益者負担金を取り、接続も自己負担、それで「市にはお金がない」で終わってしまっている。

市長 家によって接続するための工事費がだいぶ違っている。配管が1本でつながるような場所であれば、かなりお安くできるが、配管がバラバラのところであれば、何本もつながなければいけないので、お金が掛かるということもある。個人のかたから負担金を出していただくので、なかなか厳しいが、説明をしてご理解していただくしかないと思っている。

市民 まだ20％。接続率が半数を超えたら「協力しなくてはいけない」と思うが、たかが20％の接続率で「水の浄化をしよう」と言われたところで、理解できない。それも、一期工事の話。二期、三期工事があるのかどうかかわからないが、なかなか理解できないというのが現状だ。

市長 実は、下水道工事の区域は決まっている。今は二期工事をしているところで、「なんで自分たちのところだけ工事をするのか」と、非常に不公平感をお持ちになられているかたがいると思う。斎田地区を下水道工事エリアに選ばせていただいた理由は、人口が非常に密集している地区であるので、効率が良いからだということを説明させていただいている。

現在、汲み取り槽が、全体で言うと15％くらいである。また、トイレやお風呂の水など家庭の雑排水を全て浄化する合併浄化槽が20％くらい普及している。残りの65％くらいが、単独浄化槽と言って、トイレの水だけを浄化し、お風呂や洗い物の水などはそのまま流すという状況になっていて、それは側溝のところに流れていっている。だから、単独浄化槽をやめて合併浄化槽にさせていただくか、下水道に接続していただくか、どちらかをしていただかなければ水の浄化にはならない。

現在、圧倒的に多いのは単独浄化槽である。だから、下水道がある地域は、下水道につないでいただきたいし、下水道がない地域は本来であれば、合併浄化槽に替えていただかなければいけない。

なぜ不公平感が出てきているのかと言えば、下水道というのは法律で決まっていて、「エリアを指定されたら接続しなければならない」ということになっている。エリア

以外のところで、「単独浄化槽を合併浄化槽にしてください」というのは、縛りが全然かかっていないので、強制的にはできない。だから、「下水道エリア以外の地域で、単独浄化槽にしている家庭は、合併浄化槽に替えていただく」という法律の縛りができたら、下水道のエリアと同じようになって、不公平感はなくなると思う。

合併浄化槽の維持管理費と下水道の使用料を比べた時に、現在は合併浄化槽の維持管理費のほうが高い。保守点検や法定検査、さらに汚泥の引き抜き費用や電気代がかかってくる。それを比べていただいたら、下水道につないでいただけるということも考えられる。ただ、法律的な縛りがないため、単独浄化槽のままのところがあるということである。法律的な縛りがあり、どちらかにしなければいけないということになれば、下水道エリアに住まれている人は、下水道につなぎ、そうでないエリアの人は合併浄化槽に替えるということになってくると思われる。このあたりが、不公平感の原因だと思っている。

市長 皆さんとこのような形でお話をすることによって、気づきがあった。ごみ袋の話は全市的にしていかなければならないと思うし、街路樹の剪定の話なども考えていかなければならないと思う。今日は、本当に気付かせていただいたことが非常に多かった。

(以 上)